両祖忌　～跡慕う～

R5．9．26　於、加茂法話会

①曹洞宗の両祖さまは

高祖道元禅師　（建長五年〔一二五三〕八月二十八日示寂　五十四歳）

大本山永平寺ご開山（正治二年〔一二〇〇〕生）　立教の祖〔宗旨〕

太祖瑩山禅師　（正中二年〔一三二五〕八月十五日示寂　六十二歳）

大本山總持寺ご開山（文永元年〔一二六四〕生）　開宗の祖〔宗門〕

＊今の暦に直すと両祖さまの祥月命日はちょうどごいっしょで、九月二十九日

『半杓の清流、鶴湾に注ぎ　単傳の正脈、斯の山に到る』

道元禅師ー孤雲懐奘禅師ー徹通義介禅師ー瑩山禅師

「大宋紹定のはじめ、本郷にかえりしすなわち、弘法救生をおもひとせり。なほ重担をかたにおけるがごとし」（『辦道話』）

「瑩山今生の仏法修行はこの檀越の信心によって成就す」（『洞谷山永光寺盡未来際置文』）

②『十年喫飯す永平寺　十箇月来病牀に臥す　薬を人間（じんかん）に訪ねて暫く嶠（きょう）を出ず　如来手を授けて医王に見えしむ』（道元禅師）

③〃また見んと　おもひし時の　秋だにも　今宵の月に　ねられやはする〃

（建長五年〈一二五三〉八月十五日中秋明月をご覧になって　於、京都）（道元禅師）

④　此の世の人を救うべき　良き子をわれに授けよと

真心こめて母ぎみは　観音菩薩にいのらるる

（太祖常濟大師誕生御和讃）

瑩山禅師五十八歳、四月二十三日瑞夢（入山法語）ー観音堂堂主の定賢律師も四月十八日に観音様の夢告（土地寄進）→總持寺

⑤如　在（生きておわしますが如く）

〃あわれみて受けさせ給え跡しとう　心ばかりの今日の手向けを〃

（貞心尼）

新潟市秋葉区田家　久昌寺　中野睦宗